



令和元年9月18日  
総合政策局国際政策課(グローバル戦略)  
総合政策局海外プロジェクト推進課

## TICAD7 日・アフリカ官民インフラ会議、二国間会談等の結果概要

### ～アフリカにおける「質の高いインフラ投資」の推進～

国土交通省では、TICAD7の機会をとらえて、我が国の「質の高いインフラ投資」推進のため、「第2回日・アフリカ官民インフラ会議」を開催するとともに、石井大臣(当時)・阿達政務官(当時)とアフリカ各国のインフラ担当大臣との間で二国間会談を実施しました。また、TICADのテーマ別会合「ブルーエコノミー」に石井国土交通大臣が出席しました。

#### 1. 日・アフリカ官民インフラ会議 (会議の概要は別紙1、ツアーの概要は別紙2を参照)

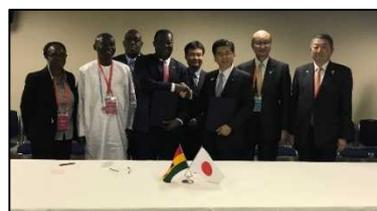
国土交通省は、我が国の「質の高いインフラ投資」のアフリカにおける展開を支援することを目的に、アフリカ・インフラ協議会(JAIDA)、JICAと連携して、「第2回日・アフリカ官民インフラ会議」を8月27日に開催しました。また、日本の質の高いインフラを体感して頂くため、アフリカからの会議参加者を対象とした質の高いインフラ視察ツアーも実施しました。

#### 2. 石井大臣・阿達政務官とアフリカ各国の大臣との会談 (概要は別紙3を参照)

TICAD7にあわせて来日したアフリカ7ヶ国8名のインフラ担当大臣と二国間会談を実施しました。「質の高いインフラ」整備を促進するため、更なる知識及び経験の共有を図ることにより、両国の協力関係を更に深めていくことで合意しました。このうち、ガーナ、チュニジアとはインフラ協力に関する覚書を大臣間で締結しました。

#### 3. TICAD7テーマ別会合

8月29日には、海洋等を活用した経済活動(ブルーエコノミー)の推進について議論するTICAD7テーマ別会合に石井大臣が出席し、アフリカにおけるブルーエコノミー推進を支援する国土交通省の取組について発言されました。(会合の議長は河野外務大臣)



(注)TICAD: Tokyo International Conference on African Development(アフリカ開発会議)の略。アフリカの開発をテーマとする国際会議。TICAD7(第7回アフリカ開発会議)は2019年8月に横浜にて開催。(前回は2016年8月ケニア・ナイロビ)

#### <問い合わせ先>

国土交通省 総合政策局 国際政策課(グローバル戦略) 藤田、杉浦(内線25205、25228)  
TEL 03-5253-8111、03-5253-8314(直通)、FAX 03-5253-1562

## 第 2 回 日・アフリカ官民インフラ会議（8 月 27 日）

- (1) 日 時：令和元年 8 月 27 日(火)  
 (2) 場 所：パシフィコ横浜展示ホールC  
 (3) 主 催：国土交通省、JAIDA、JICA  
 (4) 参加者：官民合計で約 500 名（日本側約 370 名、アフリカ・国際機関側約 130 名）

（日本側の主な出席者）

国土交通省（石井国土交通大臣、阿達大臣政務官、栗田国土交通審議官、林建設流通政策審議官）  
 外務省 赤松参事官  
 宮本JAIDA会長（清水建設会長）、奥村JAIDA代表（フジタ社長）を含む日本企業（JAIDA 会員の建設、コンサル、商社、メーカー等 約 50 社）他

（アフリカ側の主な出席者）

ブルキナファソ： ブグマ インフラ大臣  
 ガーナ： アタ 道路・高速道大臣、アチア 公共事業・住宅大臣  
 ケニア： マチャリア 運輸インフラ住宅都市開発公共事業省長官  
 マダガスカル： アンジアナリヴェル 国土整備・設備担当大臣  
 マラウイ： ジョーマ 公共事業大臣  
 ウガンダ： ワマラ 公共事業大臣 他

（国際機関の主な出席者）

アフリカ連合：アブゼイド委員（インフラ担当）、アフリカ開発銀行：シェリフ副総裁、  
 世界銀行：ワーバ総局長 他

(5) 会議概要：

### ① オープニングリマーク

阿達政務官、宮本 JAIDA 会長、アフリカ開発銀行シェリフ副総裁が開会挨拶を行いました。

＜阿達政務官の挨拶概要＞

アフリカ各国でインフラ分野をご担当する大臣の皆様をお招きすることができ大変光栄。国土交通省では 2016 年 8 月にケニアで開催された TICAD VI を契機としてアフリカ展開を強化してきた。同時期に設立された JAIDA とも連携してアフリカ各国で「官民インフラ会議」を開催し、官民一体となってアフリカ各国と質の高いインフラに関する協力関係を強化してきた。インフラ・プロジェクトの実施にあたっては、インフラそのものだけでなく、建設プロセスを通じて人材育成や技術移転も進めていく「MADE WITH JAPAN」の理念のもと、これからもアフリカの皆様とともに質の高いインフラを整備していきたい。



オープニングリマークでの阿達政務官挨拶

### ② 大臣級ラウンドテーブル

世界銀行ワーバ総局長をモデレータとし、阿達政務官、アフリカ各国の大臣、アフリカ連合アブゼイド委員が意見交換を行いました。

### <阿達政務官の発言概要>

持続可能な成長を実現するにはインフラ投資の「質」が重要となる。6月のG20大阪サミットでは、「質の高いインフラ投資に関するG20原則」が取りまとめられたが、こうした原則をアフリカの皆様とも共有していきたい。日本のインフラそのものの質の高さはもちろん、インフラ整備プロセスでの質の高さにも着目していただきたい。現地人材や企業のスキルアップの促進や、工期中の無事故や期限の順守など整備段階での質の高さは地元でも高く評価された。

日本はインフラ投資について慎重、コストが高いという声もよく耳にするが、インフラが住民生活や企業のビジネスを長年にわたって支え、国の持続可能な成長を確保するためにも、整備段階の投資規模だけでなく、その後の維持管理や運営も含めた、ライフサイクル全体でインフラを評価することが重要。そのため、事前調査からしっかりと行う日本のプロジェクト形成のスタイルも、アフリカの皆様に心にとめていただけると幸い。

これまでの官民インフラ会議では情報発信・関係構築が中心だったが、これからはプロジェクトの計画段階など上流段階から幅広く情報共有し、アフリカの皆様とプロジェクトを作っていく。それには民間の力が不可欠であり、引き続き官民一体となってインフラ協力を進めていく。

### ③ リーダーズステートメント

ラウンドテーブル終了後、参加各国のリーダーの間で「質の高いインフラ投資」の推進することを確認するリーダーズステートメントを打ち出しました。詳細は別紙4のとおりです。

### ④ JAIDAへの感謝状贈呈

石井大臣より、アフリカ各国における日本の質の高いインフラ推進に大きく貢献されたことを讃え、JAIDAの宮本会長に感謝状を贈呈しました。

### ⑤ 官民セッション

#### <セッション1>

「質の高いインフラのアフリカへの貢献」をテーマとして日本政府や経済協力開発機構(OECD)による発表に加え、日本のインフラ関連企業各社による取り組みの紹介や、邦銀等によるインフラファイナンスの取り組みが紹介されました。国土交通省栗田国土交通審議官の発表では、日本のインフラが有する持続可能性、ライフサイクルコストの観点から見た経済性、安全性等の強みが紹介されました。

(基調講演)

登壇者: 栗田国土交通審議官(国土交通省)、赤松参事官(外務省)、ペッチーニ(OECD)

(パネルディスカッション)

モデレータ: 山口専務理事(OCAJI)

パネリスト: 北常務(清水建設)、奥村社長(フジタ)、酒井社長(酒井重工業)、小泉執行役員(NEXI)、内田執行役員(三井住友銀行)、ニール本部長(スタンダードチャータード銀行)



ラウンドテーブルの様子



石井大臣から宮本会長への感謝状贈呈



セッション1の様子

### <セッション2>

「コネクティビティの実現」をテーマとして、回廊開発・域内統合に取り組むアフリカ連合開発庁ーアフリカ開発のための新パートナーシップ(AUDA-NEPAD)や WCO、アフリカ開発銀行、西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)等の国際機関、地域機関及び JICA による議論が行われました。冒頭 AUDA-NEPAD マヤキ長官より、回廊開発が Agenda2063 の実現に重要である点が触れられ、WCO 御厨事務総局長からは貿易円滑化と国境手続き円滑化におけるガバナンス・セキュリティと人材育成の重要性が述べられました。その他の登壇者からは回廊開発における鍵は域内貿易促進や産業開発とのリンケージやパートナーシップである等の発言がなされ、今後の更なる回廊開発の進展に高い期待が寄せられました。

(登壇者)

モデレーター: 坪池課長(JICA)

パネリスト: マヤキ長官(NEPAD)、グレイジョンソン貿易官(NEPAD)、御厨事務総局長(WCO)、コフィ理事(UEMOA)シェリフ副総裁(アフリカ開発銀行)加藤理事(JICA)



セッション2の様子

### <セッション3>

「持続可能な都市の実現」をテーマとして、2050年までに都心部がメガシティとなるアフリカ4カ国の大臣・政府高官より、持続可能な都市の実現に向けて掲げる政策や、課題の紹介が行われました。また、パネルディスカッションでは、世界銀行のサメ・ワーバ都市開発総局長と横浜市平原副市長、JICA 社会基盤・平和構築部荒次長も登壇し、メガシティとなる各都市の特徴は異なるものの、持続可能な都市の実現には計画から実施までの包括的な取り組みが重要であり、日本の経験・知見の活用や世銀等の国際機関との連携が重要であるとのメッセージが発信されました。

(登壇者)

モデレーター: ワーバ総局長(世界銀行)

パネリスト: コネ建設・住宅省大臣(コートジボワール)、ムバカ知事(キンシャサ州)、

ナズンダ地方自治省副時間(タンザニア)、ガンボ FCDA 事務次官(ナイジェリア)、平原副市長(横浜市)、荒次長(JICA)



セッション3の様子

## 質の高いインフラツアー（8月28日）

アフリカ・インフラ協議会（JAIDA）と協力し、アフリカ各国に日本の「質の高いインフラ技術」を発信するとともに、相手国との関係構築等を図るため、アフリカ各国からの日・アフリカ官民インフラ会議参加者を対象に現地視察を行いました。（出席国・人数：3カ国15名 ウガンダ・ガーナ・マダガスカル）

## ① 現地視察：株式会社フジタ技術センター（神奈川県厚木市）

フジタの技術センターでは、残響室・無響室での音響実験、人の動作・設備機器による振動などの対策技術の体験、建設現場におけるIT技術活用としてVR技術などを紹介しました。

床の振動を抑える実験では、異なる環境でもその技術を応用できるか、などと高い関心を寄せていました。このような研究を重ねているからこそ、日本のインフラ技術の高さがあるのだと納得されていました。



＜VR技術の体験＞

## ② 現地視察：東京外かく環状道路トンネル施工現場（練馬区）

清水建設の東京外かく環状道路の現場では、シールド工法で掘削中のトンネルの先端や、シールドマシンの状況や動きを把握する制御室などを見学しました。

高速道路が隣接しながらも、交通への影響を最小限に抑えつつ、また自然環境に配慮しながらトンネル掘削工事が進んでいることについても、さまざまな高い技術を複合的にうまく連携させていると、関心を寄せていました。



＜インフォメーションセンター見学＞

## ③ 現地視察：酒井重工業（埼玉県久喜市）

酒井重工業では、破碎・混合により路盤を再生するスタビライザー工法のデモンストレーションを行いました。目の前で路盤が均一に整備されていく実演の様子には、参加者一同大変興味深く注目していました。

このような建設機械の導入実績やスタビライザー工法の優位性の説明などを通し、母国での建設機械導入を検討する大臣もいらっしゃいました。



＜建設機械の実演見学＞

## ④ 現地視察：日本信号久喜事務所（埼玉県久喜市）

日本信号では、先進的な信号システムの生産現場を視察し、最適な交通信号の制御を行うことが、各都市の交通渋滞に対するひとつの解決策になり得ることを紹介しました。

日本信号に本年度入社したケニア出身のエンジニアの女性が、一緒に出迎え案内をしていただき、参加者のみなさんは、日本の企業がアフリカを受け入れてくれたと喜んでいました。最後にウガンダの大臣が、今後も日本の民間企業とアフリカがもっといい関係を築いていくことを願っていると話されました。



＜日本信号社員との集合写真＞

## 石井大臣・阿達政務官とアフリカ各国の大臣との会談

石井大臣と阿達政務官はアフリカ7か国8名のインフラ担当大臣等と二国間会談を行い、「質の高いインフラ」についての認識を共有するとともに、インフラ分野における官民一体となった協力関係の強化について確認しました。また、個別プロジェクトや今後の協力のあり方等についても意見を交わし、ガーナ及びチュニジアとはインフラ協力に関する覚書を締結しました。(令和元年8月27日パシフィコ横浜内にて実施(ブルキナファソのみ令和元年8月29日国交省内にて実施))

### ●二国間会談の相手

#### 1. 石井大臣

チュニジア共和国 ジヒナウイ外務大臣  
 ケニア共和国 マチャリア運輸インフラ住宅・都市開発長官  
 コートジボワール共和国 クアク設備・道路整備大臣  
 ガーナ共和国 アタ道路・高速道大臣、アチア公共事業・住宅大臣

#### 2. 阿達政務官

ウガンダ共和国 ワマラ公共事業担当大臣、アチア公共事業・住宅大臣  
 マラウイ共和国 ジョーマ運輸・公共事業大臣  
 ブルキナファソ ブグマインフラ大臣

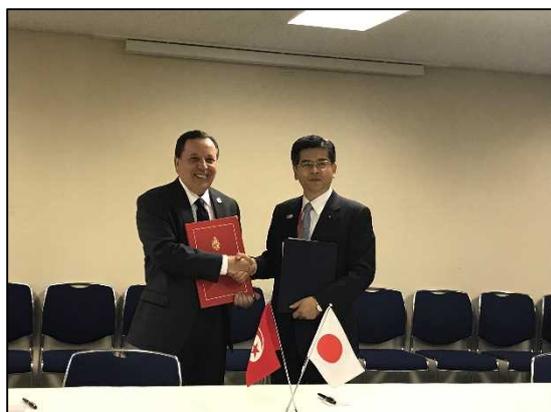
### ●締結した覚書

#### 1. チュニジア共和国

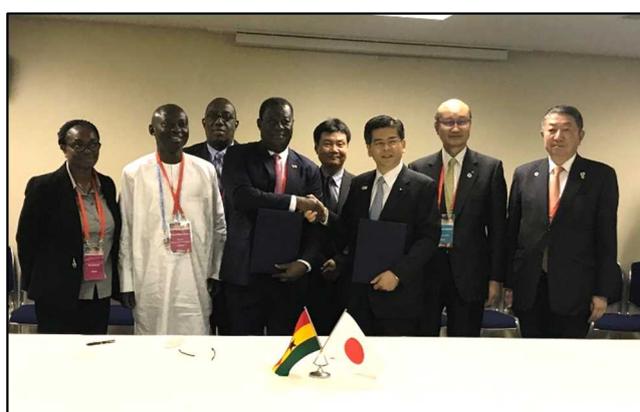
日本国国土交通省とチュニジア共和国外務省との間で、両国のインフラ分野における協力・連携を進めるため、質の高いインフラ投資の推進に向けた包括的なインフラ協力に関する覚書を締結しました。

#### 2. ガーナ共和国

日本国国土交通省とガーナ共和国道路・高速道省との間で、道路分野及びその他両者が必要と認めた分野の PPP プロジェクトへの投資促進・拡大を通じた両国の持続的な経済発展・協力関係強化のための協力覚書を締結しました。



覚書署名後のチュニジア共和国ジヒナウイ外務大臣と石井国土交通大臣



覚書署名後のガーナ共和国アタ道路・高速道大臣と石井国土交通大臣

「第2回 日・アフリカ官民インフラ会議」  
「質の高いインフラ投資」の推進のためのリーダーズステイトメント(和文)

TICAD7の開催を踏まえて、2019年8月27日、日本の横浜において、TICAD7のサイドイベントとして開催された「日・アフリカ官民インフラ会議」に出席した日本及びアフリカ各国(ブルキナファソ、ガーナ、ケニア、マダガスカル、マラウイ、ウガンダ、アフリカ連合)のインフラを担当する我々リーダーは、「質の高いインフラ投資」の推進のため、以下の項目を確認する。

1. アフリカ社会において、強固で、持続可能、かつ、均衡ある成長を促進し、強靱性を向上させるためには、「質の高いインフラ投資」の推進によって、インフラ投資の需給ギャップを埋めるよう、一貫して取り組むことが重要であるという認識を共有する。
2. アフリカにおける「質の高いインフラ投資」を推進するためには、以下の原則に則ることが重要であるという認識を共有する。
  - (1) 公的財政の持続可能性を保つ形での持続可能な成長と開発を達成するためのインフラの正のインパクトを最大化し、ライフサイクルの観点で経済性を向上し、環境・社会配慮を統合し、自然災害その他のリスクに対する強靱性を構築し、及びインフラのガバナンスを強化するインフラ投資を促進する。
  - (2) 「Made with Japan」のコンセプト、すなわち、インフラそのものの重要性だけでなく、建設の過程や手法の質の重要性の認識に基づき、技術、専門知識及びマインドを用いて、日本と一緒にインフラを整備するというコンセプトを共有する。さらに、「Made with Japan」のコンセプトの実践を通じて、アフリカ国々・国民の雇用創出、技術やノウハウの移転、能力強化を促すインフラ投資を促進する。
  - (3) タイムリーかつ効果的にPPPを含む可能性のある今後のインフラ・プロジェクトに関する情報共有を促進することで、今後のインフラ・プロジェクトを追求・構築していく。
3. 我々は、インフラ投資が2. の原則に則ったものとなるよう、民間企業のカも活かしつつ、共通の理解のもと、協力を進める。また、民間企業の役割を十分理解し、PPPを含めたビジネス環境改善に努める。我々はさらに、民間投資を促すためにも、JAIDA(アフリカ・インフラ協議会)のような民間企業と可能性のある今後のインフラ・プロジェクトについての情報の共有を行う。
4. アフリカ各国との間で上記の認識を共有するため、同会議のような官民インフラ会議の開催等の取組を継続するとともに、次回の TICAD 開催時にも、今回と同様の会議を開催することができるよう、協力を進める。